

会議録

会議の名称	平成 26 年度第 1 回西東京市地域計画策定普及推進委員会
開催日時	平成 26 年 11 月 13 日（木） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 15 分まで
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5 階 502 会議室
出席者	【委員】熊田委員、芦野委員、中原委員、篠宮委員、丸木委員、中野委員、島田委員、渡辺委員、野間委員、飯野委員 （欠席）伊藤委員 【事務局】生活福祉課長、生活福祉課調整係長、生活福祉課調整係主査、生活福祉課調整係主事
議題	1 開会 2 議題 （1） 第 2 期西東京市地域福祉計画取り組みの状況 （2） ほっとネット事業報告（平成 25 年度分） （3） 第 3 期西東京市地域福祉計画の概要 （4） 「地域に居場所を求める方への支援」について （5） その他
会議資料の 名 称	資料 1 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会委員名簿 資料 2 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会設置要綱 資料 3 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会傍聴要領 資料 4 西東京市市民参加条例・西東京市市民参加条例施行規則 資料 5 第 2 期西東京市地域福祉計画取り組みの状況 資料 6 ほっとするまちネットワークシステムの概要 資料 7 平成25年度 地域福祉コーディネーター事業報告 資料 8 ほっとするまちネットワークシステム総合推進会議の位置付け 資料 9 地域に居場所を求める方への支援について （平成26年11月5日実施 地域福祉庁内推進委員会資料） ※（新任の委員の方のみ） 第 3 期西東京市地域福祉計画 第 3 期西東京市地域福祉計画概要版
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
1 委嘱式	—————委嘱状の交付—————
2 会議	
○ 事務局	

—————欠席委員の確認（欠席：伊藤委員）—————

—————各委員自己紹介—————

【委員長・副委員長の選任】

—————（委員長：熊田委員、副委員長：伊藤委員）—————

○ 委員長（挨拶）

私は、西東京市に立地している武蔵野大学社会福祉学科に所属している熊田である。前回の任期においても委員長を拝命し、積極的な議論をいただく中で非常によい計画ができたと感じている。特に、現在推進している「ほっとネット」等の事業を含め、西東京市の地域福祉計画は、都内でもかなり注目を集めているところである。こういった取組みをどう育て、発展させていくかというのが課題になろうかと思う。各方面から選出されている委員の皆さまのご指導、お力添えをいただきながら、今後２年間、計画策定及び進行管理に向けて取り組みたいと思うので、よろしくお願いしたい。

【西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会の運営について】

○ 事務局 —————資料に沿って説明—————

—————会議資料の確認—————

—————委員会設置要綱の確認—————

—————会議の公開の確認（条例に基づき公開とする）—————

—————傍聴人の人数の確認（条例に基づき５名程度とする）—————

—————会議録についての確認（発言者の発言内容ごとの要点記録）
（発言者は氏名を入れず「委員」と表記）—————

（１）第２期西東京市地域福祉計画取り組みの状況

○ 事務局 —————資料５に沿って説明—————

○ 委員長

只今、事務局より説明があったが、何か不明な点やわからないことなどあれば、発言いただきたい。

○ 委員

評価と貢献度という観点から資料は作成されているが、貢献度というのは評価のグラフの中で実施できた事業についての貢献度を検証しているという理解でよろしいか。
また、貢献できたというのは、実施できたと同意であると解釈してよろしいか。

○ 事務局

そういった解釈で適当である。

○ 委員

今回、貢献度という分野での分析を行っているが、貢献できた、一部貢献できた、貢献できなかったという3つに分類して評価をしている。ここまで細分化して評価をする必要はあるのだろうか。より大きな枠での分類だけで十分だと考える。

○ 事務局

実施予定事業の中で、一部だけ本年度に実施できた事業も多々ある。そうしたものについて、貢献できなかったという枠にまとめるというのは適当ではないと考える。
逆に、貢献できたという枠にまとめるのも適当ではないと考えた。そうした背景から、3つの観点での分類にした。

○ 委員

評価と貢献度という2つの観点について、どう解釈してよいかわからない。

○ 事務局

貢献度については、評価の対象となる事業のなかで、実施した事業について調査対象としている。貢献度についての記載のある事業は、実施した事業という解釈をしてもらいたい。

○ 委員

いつの時期に、どれくらいの範囲で調査を行ったのかが見えない。
調査対象全体の大きさ、時期等はいつごろなのか。統一的行ったものなのか。

○ 事務局

平成25年度の実績について、平成26年7月～8月に調査を行っている。
地域福祉計画の施策体系の中で、取り組みをお願いしている所管課宛てに、統一的行っ

ている。

○ 委員

対象事業なしということの意味はどういう事なのか。

○ 事務局

各目標に沿う事業を、各課の実施事業に割り当て対象事業に設定した。

しかし、その割り当てが適切ではなく、目標に沿っていない事業が発生してしまっている。そうした事業が対象事業なしと上がってきていると解釈している。

○ 委員長

基本目標ごとに取り組み状況の報告をいただいたが、どの目標に対する取組みに課題があると捉えているか。

○ 事務局

グラフをご覧いただいても分かるように「基本目標 6 災害や犯罪から市民を守るまちづくり」が評価、貢献度ともに値が低い。防災、防犯といった事業が主なものである。防災をつかさどる危機管理室の取組が多いが、高齢、障害、保健衛生の部署の取組もある。災害時に支援を要する者の名簿を作成し、これらの方への取組がある。こうした方への直接的な働きかけ、庁内関連部署や地域の団体との連携、事業周知が不十分であるとの評価が示されている。評価については所管課の主観に委ねており、厳しいところ、甘いところと評価に差異があるのも事実である。

○ 委員長

仕掛けとしての社会資源は醸成しつつある。知ってもらうことが大切ではなかろうか。

○ 委員

こうした調査において、評価の客観性を持たせるというのは難しいと思う。たとえば、依頼をする段階でガイドライン（判断基準）などを示してから調査をするなどの工夫をしているのか。

○ 事務局

評価についての工夫という観点では、判断基準の例示などは行っていない。今後は御指摘を踏まえて改善していきたい。

（２） ほっとネット事業報告（平成 25 年度分）

○ 事務局 ————資料 6・7 に沿って説明———

○ 委員長

只今、事務局より説明があったが、何か不明な点やわからないことなどあれば、発言いただきたい。

○ 委員

資料7についての表であるが、このペースで相談件数等が増加していくと、4人では人手不足に陥るのではないか。

○ 委員

まちづくりの項目の対象別事業のより詳細な内訳が欲しい

○ 事務局

コーディネーターに提出を求めている活動記録に、現状では内訳の記載を求めている。今後、活動記録に内訳の記載を盛り込むことを検討したい。

○ 委員

コーディネーターはすごく仕事が多く、大変だと思う。スーパーバイザーのようなポジションの方はいるのか？

○ 事務局

現状では、そうしたポジションはいない。

○ 委員

委託先である社会福祉協議会では、週に1度、コーディネーター全員を集めたケース会議を開いており、その場に於いて社会福祉協議会として他の社会資源の活用などを組織的に検討している。事実上のスーパーバイザー的な役割を社会福祉協議会全体で行っていると解釈している。

○ 委員

地域の中に居るお困りごとを抱えた方の把握の仕方を聞きたい。お困りごとを抱えた方からのSOSをどのように把握してくるのか。

○ 事務局

基本的にはお困りごとを抱えた方からの相談が多い。市報等にほっとネットステーションの電話番号を掲載していることもあり、電話にて御相談を頂くことが多い。

そして、ほっとネットの特徴でもあるのが、コーディネーターが出向いての対応だ。例えば、自治会の会合への出席などがあげられる。そうした自ら出向くことによって、地域の組織や周辺住民からお困りごとを抱えた方に繋がることも多い。

○ 委員

ほっとネット推進委員について、人数の増加傾向や人数目標に対する進捗状況はどうか。また、ほっとネット推進員の年齢層や性別の内訳について知りたい。

○ 事務局

現在、200 名前後の登録を頂いている。これは非常に順調に増加していると解釈している。人数も目標値は各圏域ごとに 100 名ずつ、全市において 400 名が数字的目標である。

目標値から見ても、増加のペースは非常に順調と考えている。

ほっとネット推進員の内訳であるが、年齢的には 70 歳前後、税別は女性の登録者が中心となっている。また、個人の申込だけではなく、自治会として登録をいただいているケースも多々ある。

(3) 第 3 期西東京市地域福祉計画の概要

(4) 「地域に居場所を求める方への支援」について

○ 事務局

———第 3 期地域福祉計画（概要版）、資料 8・9 に沿って説明———

○ 委員

民生委員として、担当している地区に「仙人の家」という居場所の施設がある。しかし、現状としていけない人も多くいる。そうした人は行きたくても行けない方が多い。もっと簡便な居場所でもよいのではなかろうか。例えば道に長椅子を置いてみてはどうだろうか。

建物に拘る必要はないように思う。

○ 委員

私は「語らいの場チャオ」に関わっている。より参加への敷居を下げるという意味で、生活道路沿いに居場所づくりのための居場所が必要ではないだろうか。

○ 委員

子どもとお年寄りが一緒に過ごせるような居場所があれば良いと思う。認知症を患っている方がふらっと立ち寄れる場所などが理想的ではないだろうか。

○ 委員

複合的に分析をした方が良い。他の目的で同質の事業を行っている他の部署や社会資源があるかもしれない。そうした状況を把握することも必要だと考える。

○ 委員

私は児童館、高齢者施設、団地が近所にある場所に暮らしている。そうした施設を横断的につなげることのできる場所を作ればいいと考えている。居場所をコーディネートしてくれる人のひつようを感じている。

○ 事務局

先の 11 月 5 日に開催した地域福祉庁内推進委員会においても、同様の議論を行い、庁内においても、そうした居場所についての調査を行う予定だ。

本日出た意見を踏まえ、次回の本委員会では調査結果などを報告したい。

○ 委員長

それでは、平成 26 年度第 1 回西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会をこれにて終了する。